

◎ 附 録

1 沿革

昭和22年4月1日	鳥取県立公民館規程の制定により鳥取県立鳥取図書館内に鳥取県立公民館が併置され、図書部、科学部、集会所がおかれる。 科学部は「科学研究館」として運営。
昭和24年7月1日	鳥取県立公民館規程が廃止され、鳥取県立科学館設置条例に基づき「鳥取県立科学館」が設置される。
昭和24年7月23日	仁風閣に移転。物理、電気、化学、地学、生物の5部門からなる指導研究室を設置。
昭和27年7月1日	昭和27年7月博物館法の施行により、同法に基づく博物館相当施設として文部大臣の指定を受ける。
昭和29年7月1日	登録博物館となる。
昭和29年7月1日	鳥取県立科学博物館規程の制定により「鳥取県立科学博物館」と改称。
昭和30年5月	考古指導研究室設置。
昭和30年7月	教育研究所等の転出により仁風閣を全館使用。
昭和31年7月1日	鳥取県立科学博物館に庶務係及び指導調査係を設置。
昭和38年3月31日	理工学部門（物理、電気、化学）の廃止。
昭和38年4月1日	民俗部門の設置により生物、地学、考古、民俗の4部門となる。
昭和39年9月6日	文化センター建設調査費を計上し、施設構想を検討。
昭和43年9月10日	文化センター敷地について、鳥取市公設運動場と二の丸公園を充てることで知事と鳥取市長が合意。
昭和44年4月2日	文化施設の建設促進のため、県に鳥取県立文化施設促進協議会を設置。
昭和44年5月30日	株式会社日建設計に建設構想図の作成を依頼。
昭和45年9月15日	鳥取県立博物館の実施設設計完了。
昭和45年10月20日	建設工事着工（建設費総額 11億2,904万6千円）。
昭和46年4月1日	鳥取県立科学博物館に美術係を設置。
昭和47年4月1日	鳥取県立科学博物館を「鳥取県立博物館」と改称、組織も、管理課（庶務係、設備係）、学芸課（学芸係、美術係、史料係）と二課制に拡充。
昭和47年4月1日	西本真一県立鳥取東高等学校長が館長に就任。
昭和47年5月31日	建設工事竣工。
昭和47年10月1日	鳥取県立博物館竣工式、開館式挙行。
昭和48年	仁風閣を鳥取市に委譲。
昭和50年4月1日	木代彰県教育長が館長に就任。
昭和51年12月14日	西尾優県教育長が館長事務取扱。
昭和52年4月1日	前田壽男県教育次長が館長に就任。
昭和56年4月1日	山根幸恵県立鳥取西工業高等学校長が館長に就任。
昭和58年4月1日	河田晃県立鳥取西工業高等学校長が館長に就任。
昭和58年4月1日	学芸課の係を再編成し、自然係、美術係、人文係とする。
昭和58年4月1日	考古・民俗展示室を歴史・民俗展示室に改編。
昭和60年4月1日	松本兵衛県立鳥取図書館長が館長に就任。
昭和60年6月11日	近代美術展示室を開設。
昭和60年11月3日	皇太子殿下・同妃殿下が、第21回全国身体障害者スポーツ大会行啓の際当館を御視察。
昭和61年6月8日	中国河北省友好訪日団（河北省長ほか5名）来館視察。
昭和62年4月1日	長石肇県教育次長が館長に就任。
平成4年4月1日	國岡靖夫県立倉吉東高等学校長が館長に就任。
平成5年11月15日	文化課に県立美術館基本構想検討委員会を設置。

平成6年6月8日 鳥取県立博物館改修計画策定委員会を設置。

平成8年3月28日 鳥取県立博物館の改修について教育長へ提言。

平成9年4月1日 西垣幸信県立鳥取盲学校長が館長に就任。

平成10年6月16日 中国河北省博物館友好交流団（李吉樹館長ほか4名）が来館。
鳥取県立博物館において、河北省博物館と「友好交流館締結協定書」に調印。

平成10年8月7日～11日 第22回全国高等学校総合文化祭（美術・工芸部門）開催。

平成11年2月8日 熱源機器改修工事完成（平成10年6月着工）

平成12年9月12日 中国河北省博物館友好交流団（李宏傑副館長ほか5名）が来館。

平成13年4月1日 渡瀬由章県立鳥取農業高等学校長が館長に就任。

平成13年10月4日 バリアフリー工事着工。

平成14年4月1日 機構改革により美術振興課設置。（文化課・美術館整備調査室および学芸課美術係の組織再編）

平成14年4月10日 バリアフリー工事完成。
 ①玄関アプローチ手すり及び屋内階段の両方に手すり設置
 ②喫茶室出入口及び屋内段差をスロープに改修
 ③休憩室内手洗い改修（車イス対応）
 ④身障者用便所を多目的便所に改修（折りたたみシート、オストメイト設置）
 ⑤視覚障害者誘導用床材設置（玄関アプローチ→正面玄関入口→ホール）
 ⑥玄関先及び駐車場入口の側溝改修
 ⑦エレベーター（身障者対応）及び段差解消リフト設置（2台）
 ⑧車イス用駐車場整備（駐車場の区画整備）
 ⑨既設スロープ出隅部面取り
 ⑩園路出入口段差解消（スロープに改修）及び園路（砂利道）を透水性真砂土に改修

平成14年4月25日 音声誘導設置及びパトランプ設置完成。

平成14年10月13日～10月27日 第17回 国民文化祭・とっとり2002「美術展（日本画・洋画）」開催。

平成14年11月2日 開館30周年記念事業実施。

平成15年3月16日 高円宮妃殿下が故高円宮さま「素顔の一瞬」（仁風閣）鳥取展の際御来館、視察。

平成15年4月1日 谷口博繁 国民文化祭推進局長が館長に就任。

平成16年4月1日 管理課を総務課に改称。

平成17年4月1日 本庁化となる。併せて、学芸課、美術振興課の係を廃し、担当制となる。

平成18年4月1日 三田清人 文化観光局長が館長に就任。

平成18年4月1日 山陰海岸学習館及び遠山正瑛資料室が新たに附置される。

平成19年7月 久松山、建物及びお堀をイメージしたロゴ・マークを作成。

平成21年4月1日 森谷邦彦 県立県民文化会館館長が館長に就任。

平成21年4月1日 開館時間延長を始める

平成21年10月 山陰海岸学習館リニューアル整備の着工。

平成22年4月1日 運転監視及び設備保全業務の外部委託開始に伴い、設備係を2名削減する。

平成22年4月24日 山陰海岸学習館リニューアルオープン。

平成22年9月12日 ロシアアルセーニエフ名称沿海地方博物館と「友好交流及び協力に関する協定」を締結。

平成22年12月10日 韓国江原道国立春川博物館と「友好交流及び協力に関する協定」を締結。

平成23年7月 博物館カフェリニューアルオープン。

平成23年12月1日 韓国江原道国立春川博物館と「職員相互派遣に関する合意書」を締結。

平成24年3月 山陰海岸学習館屋外トイレ棟増築。
山陰海岸学習館ハートフル駐車場の屋根及び玄関までの通路上屋設置。

2 施設の概要

(1) 鳥取県立博物館

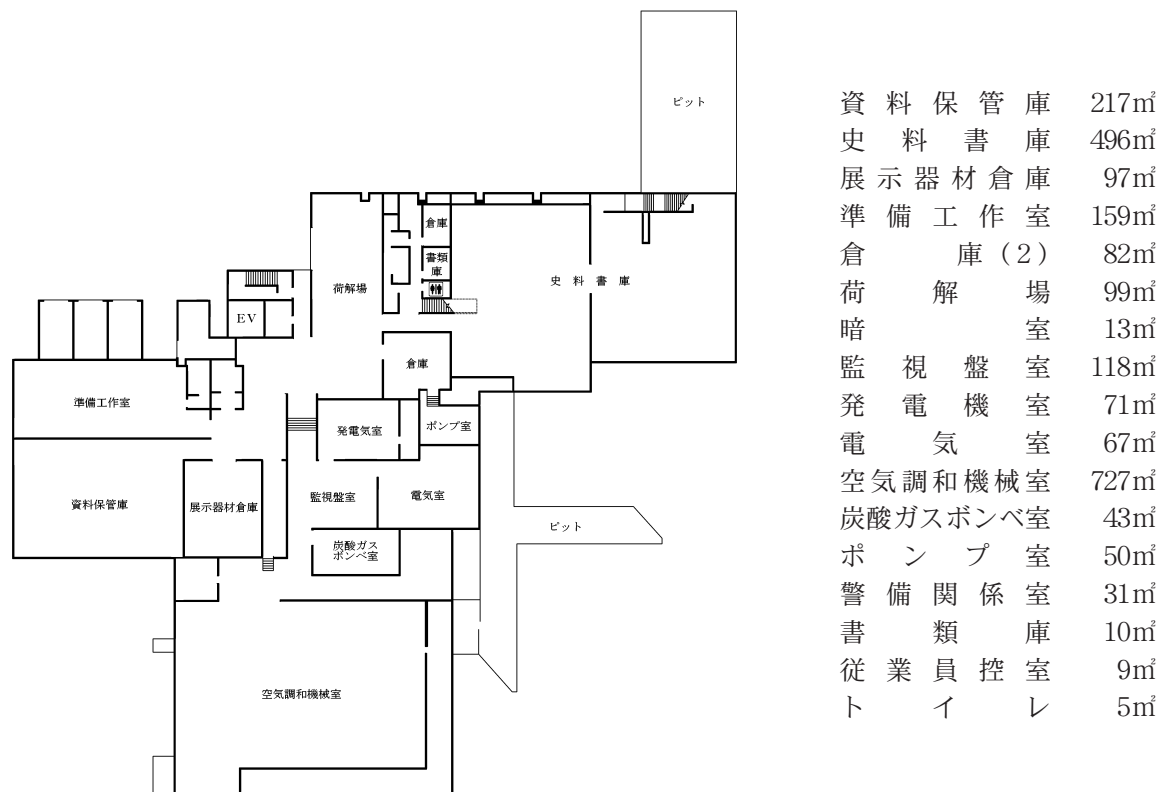
〈規模〉

構造	鉄筋コンクリート造	地下1階、地上2階、一部3階
面積	敷地面積	14,228㎡
	建築面積	3,576㎡
	延床面積	9,699㎡
	地階	2,668㎡
	1階	3,623㎡
	2階	2,606㎡
	3階	706㎡
	屋上階	58㎡
	屋外倉庫(別棟)	38㎡

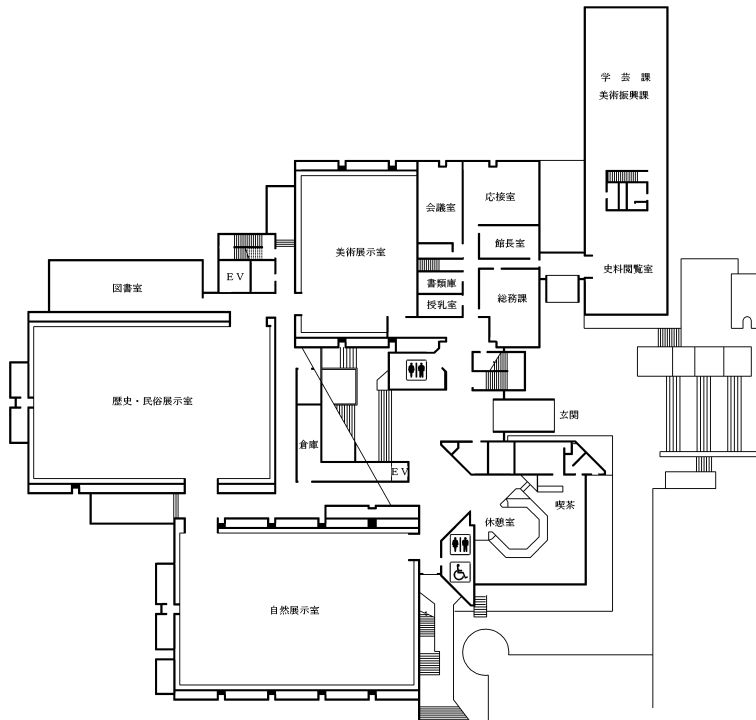
〈主要設備〉

- ① 空気調和設備 (温湿度調整)
- ② 収蔵庫、常設・特別展示室、炭酸ガス消火設備 50kgボンベ 112本
- ③ 予備発電設備 6,600V・250KVA
- ④ エレベーター設備 人荷用：定員 59名、積載荷重 3,900kg、1基
乗用：定員 11名、積載荷重 750kg、1基

地階平面図

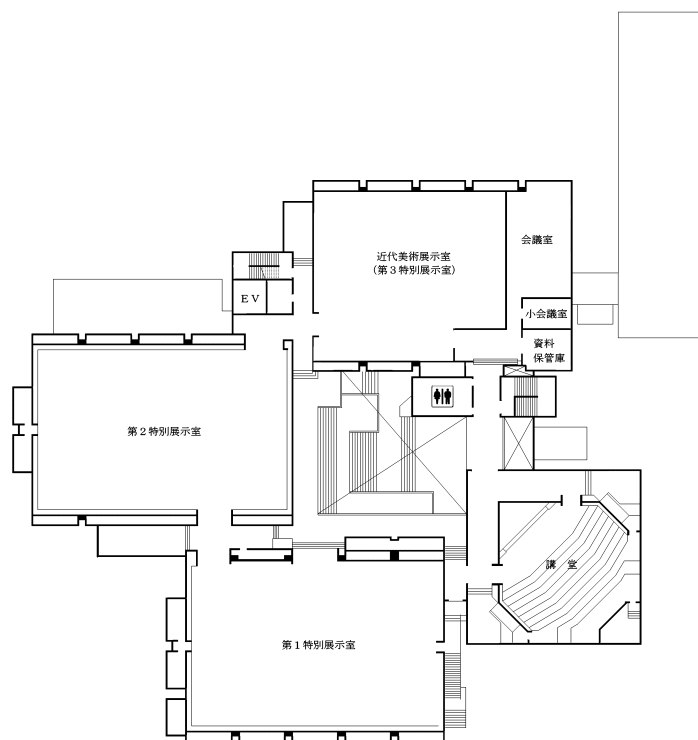


1 階平面図



自然展示室	515㎡
歴史・民俗展示室	515㎡
美術展示室	260㎡
喫茶・休憩室	182㎡
休憩室(2)	66㎡
応接室	60㎡
館長室	26㎡
総務課	68㎡
学芸・美術振興課	170㎡
史料閲覧室	111㎡
図書室	108㎡
会議室	50㎡
書類庫	10㎡
授乳室	14㎡
倉庫(階段下)	110㎡
展示室倉庫(2)	40㎡
トイレ(2)	49㎡

2 階平面図



第1特別展示室	515㎡
第2特別展示室	515㎡
近代美術展示室 (第3特別展示室)	374㎡
講堂・映写室	206㎡
会議室・小会議室	107㎡
資料保管庫	22㎡
展示室倉庫(2)	40㎡
休憩室(2)	66㎡
トイレ	30㎡

3階平面図

収 蔵 庫	258㎡
資 料 保 管 庫	172㎡
予 備 資 料 室	60㎡



(2) 山陰海岸学習館

〈規 模〉

構 造 鉄筋コンクリート造 地上1階
 面 積 敷地面積 2,291㎡
 建築面積 551㎡
 延床面積 538㎡

〈附属施設〉(電気室棟)

構 造 鉄筋コンクリート造 地上1階
 面 積 建築面積 14㎡
 延床面積 14㎡

〈附属施設〉(屋外トイレ棟)

構 造 木造 地上1階
 面 積 建築面積 121㎡
 延床面積 79㎡

〈主要設備〉

- ① ペレットボイラ
- ② 冷温水発生機
- ③ コンパクト空気調和機
- ④ 大型水槽 4.5 t

1階平面図

